

口腔細胞診セミナー

A seminar of oral clinical cytology

【セミナー企画】

日本大学松戸歯学部病理学講座・教授

日本病理学会口腔病理専門医研修指導医,

日本臨床細胞学会細胞診専門歯科医・教育研修指導医

Department of Pathology, Nihon University School of
Dentistry at Matsudo, Professor,

久山 佳代 KUYAMA Kayo



昨今の口腔癌及びその死亡率の増加傾向から、口腔擦過細胞診が普及し、2015年に口腔細胞診の新しいガイドラインが制定された。ところが白板症を代表とする表層に角化亢進が先行する上皮内腫瘍からの細胞判定は細胞採取量が少なく、難渋することもある。従来型擦過細胞診では採取細胞量の90%が破棄されるといわれている。そこで採取した細胞全量を活かし、精度を向上させ、標本作製の標準化を実現させる手法が液状化細胞診である。今回は液状化細胞診について、豊富な経験をお持ちの佐々木 優先生のご講演を企画した。

【セミナー講師】

医療法人優和会おひさまにこここ歯科医院・理事長

Yuwakai Med. Corp. Dental Clinic, Chief Director

佐々木 優 SASAKI Masaru



利益相反 (COI) : 無

【略歴】

1986年4月 東北大学歯学部附属病院第二口腔外科

1989年4月 東北大学歯学部文部教官助手 (口腔病理学講座)

2011年12月 医療法人優和会理事長

2016年3月 獨協医科大学大学院医学研究科博士課程修了

学位・資格 博士 (医学) 博士 (歯学) 東北大学医学部非常勤講師 (病理学)

日本病理学会口腔病理専門医研修指導医

日本臨床細胞学会細胞診専門歯科医

「そうだ。細胞診という手があった。」: かかりつけ歯科診療所と病院歯科口腔外科でできる液状化検体細胞診 (LBC) による口腔がんスクリーニング

Oral cancer screening using liquid-based cytology

【内容】

1. 口腔がん早期発見のキープレイヤー：かかりつけ歯科診療所と病院歯科口腔外科
2. 「右手が組織診。左手が細胞診。」：どういう場合に細胞診は有効か？
3. 世界と日本の口腔細胞診の現在地：液状化検体細胞診（LBC）、口腔専用ブラシと新報告様式について
4. 液状化検体細胞診（LBC）導入の実例：かかりつけ歯科診療所と病院歯科口腔外科

【要旨】

口腔がんの早期発見の重要性は以前から指摘されていますが、いまだに口腔外科専門医受診時には半数近くの患者さんが進行がんであることは憂慮すべきことです。今年に入って元アイドルの女性が症状を自覚後、かかりつけ歯科診療所を含む複数の医療機関を受診していたにも関わらず、大学病院口腔外科を受診時にIV期の舌がんと診断されたことがマスコミで大きく取り上げられました。ブログから臨床経過を調べると、かかりつけ歯科診療所で早期に専門医を紹介すべきだったと考えられますが、早期の口腔がんは視診・触診だけでは専門医でも鑑別が難しいことがあり、紹介のタイミングが難しかったことが考えられます。口腔がんの死亡者数が30年間で3倍以上になっていることから、口腔がんの早期発見のためには何らかの新しいツールやシステムが必要と思われれます。

子宮頸がんのスクリーニングに広く用いられている細胞診は従来チェアサイドで塗抹標本を作成するため、多くの歯科医には技術的に難しく、そのため十分な信頼性が確立されているとは言えず、口腔領域ではあまり普及してきませんでした。しかし2010年代以降、世界的には液状化検体細胞診（LBC）と口腔専用オーセレックスブラシ[®]の使用、ベセスダシステムをベースにした新しい報告様式などの新しい潮流により信頼度は向上し、北米やインドなどを中心に液状化検体細胞診（LBC）が口腔がんのスクリーニングに多用されるようになってきました。

現代の病理医では「右手が組織診。左手が細胞診。」と言われ、組織診と細胞診の二つの手を使って病態の診断を行うことが広く行われてきております。肺がんなどの診療では抗がん剤の選択や予後の判定などにも液状化検体細胞診（LBC）の検体が用いられています。組織診（生検）は病理診断のゴールドスタンダードですが、細胞診には患者さんの苦痛が少ないこと、経過を見ながら繰り返し検査をすることが容易なこと、広範囲の細胞を採取できることなど、スクリーニング検査として組織診にない強みがあります。今回、宮城県内のかかりつけ歯科診療所や病院歯科口腔外科で導入されている口腔の液状化検体細胞診（LBC）の実例をご紹介します。視診・触診と組織診の間で活用される細胞診という“手”についてお話したいと思います。本セミナーが口腔がんの早期発見につながることを一助となるよう多くの皆様の御参集を希望します。